

<開院50周年記念特別企画> 病院長と若手医師6人が語る、本院の現在と未来

人を育て、医療を磨き、地域へ還す。愛媛の医療を支える大学病院の使命。

け入れ、必要な検査・治療を院内で連携して行い、状態が安定すれば地域へお戻しする。紹介・逆紹介を円滑にし、地域と役割分担しながら、愛大病院は必要な時にトップスピードで対応できるよう準備を積み重ねていきます。

小泉 大学病院や大規模病院で均一化が進んだ内視鏡治療。ただ中規模病院以下になると、差が出てきます。県内全体の医療水準向上に向け、若手医師の教育を進める必要があります。自分たちがしている治療や研究を発信し、愛媛に残りたい、この大学で働きたいと思う仲間を県外から呼び込みたいです。臨床面も研究面も、まだまだ大きく発展できるはずです。

渡辺 県内には一芸に秀でた医師、看護師、理学療法士など、特色ある取り組みをしている人材がいます。全く新しいものを一から作るというより、こうした意欲ある人材や既にある優れた仕組みを発掘し、診療科や職種、大学内外の垣根を越えてつなぎ、愛媛の特色として発信することで、自治体、地元企業などの地域資源やサポーターを巻き込み、『医療を核と

した愛媛ならではの共同体』を作っているのではないかと考えています。

羽藤病院長 私も前から同じ方向性で考えています。先日、とうおんメディカルタウン構想Plusを発表しました。これが発展していけばと思います。

木下 整形外科は、重い合併症を持つ患者や超高齢患者、他施設での治療が難しい患者を他科と連携して受け入れ、再手術やより高度な技術を要する症例にも対応していく必要があります。年齢を重ねても元気に過ごせる方を1人でも多く増やせるよう、チーム愛媛・チーム愛媛大学で取り組んでいきたいです。

羽藤病院長 今日は皆さんから率直で、前向きな話が聞けて、心強く感じました。同時に、皆さんをサポートする体制整備も進めていかねばなりません。建て替えを予定している新棟がオープンする頃には、皆さんはそれぞれの現場でエンジンの役割を果たしていただきたいと思います。今後も大学病院に課された高度医療の提供・研究教育機能の維持に対して、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

PROFILE

羽藤 直人 病院長

はとうなおひと◎愛媛県出身、1989年愛媛大学医学部卒業。2026年4月から附属病院長に就任。専門分野は神経耳科学。趣味はゴルフとセーリング。

加賀城真理 感染制御学講座 講師

かがじょうまり◎2006年本学医学部卒業。小児科、小児血液腫瘍分野を中心に診療・研究に従事。2022年から現職。趣味は息子と遊ぶこと。

木下智文 整形外科 助教

きのしたともふみ◎2014年本学医学部卒業。膝関節外科を専門に診療・研究に従事。デンマーク留学を経て現職。趣味は愛媛FC応援と子どもとのゲーム。

小泉光仁 第三内科 特任講師

こいずみみつひと◎2007年本学医学部卒業。消化器内科医として診療・研究に従事。現在は消化器内科胆膵グループ長。趣味は息子との釣り、キャンプ。

丸田雅樹 腫瘍センター 講師

まるたまさき◎2011年本学医学部卒業。血液内科医として、臨床・研究に従事。がん薬物療法を専門とし、2026年4月から腫瘍センター長に就任。趣味は家族との外出。

三谷壮平 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任講師

みたにそうへい◎2006年本学医学部卒業。頭頸部外科研修後、現職。米国留学を経て、ロボット等内視鏡手術・研究に従事。趣味はアプリ作りと猫。

渡辺隆太 泌尿器科 特任講師

わたなべりゅうた◎2008年本学医学部卒業。米国留学を経て2025年から現職。前立腺癌診療の新規治療法の研究・開発に従事。趣味はランニングと歌。

編集後記

本号では、開院50周年の節目に、病院長と将来有望な若手医師が、愛大病院と愛媛の医療の未来を語り合いました。先人が築いた歩みを受け継ぎ、新たな医療を自らの手で創っていく。その熱い思いを広く届け、地域との信頼をつなぐことも、私たち広報の使命です。50年の歴史の先に、どんな愛大病院が待っているのか。若い力が加われば、その未来はきっと想像以上に面白い。そんな挑戦の一つひとつを見逃さず、伝え、応援し、一緒に次の50年を走っていきます！



広報委員会委員長
城戸輝仁

愛媛大学医学部附属病院 開院50周年

— 医療を創る、人を創る、愛媛を守る —



昭和51年の開院以来、当院は地域の皆様に支えられ、令和8年10月に開院50周年を迎えました。この節目に、患者サービス向上や最新医療を紹介する記念誌の発行など、次の50年につながる記念事業を実施しています。未来の愛媛の医療をともに創るため、温かいご支援をお願い申し上げます。



50周年記念
WEBサイト



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)



愛媛大学医学部
附属病院
ホームページ



医学部及び
附属病院
Instagram



愛媛大学大学院
医学系研究科・医学部
ホームページ

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

82

2026 AUTUMN

開院50周年記念特別企画 病院長と若手医師6人が語る、本院の現在と未来

人を育て、医療を磨き、地域へ還す。
愛媛の医療を支える大学病院の使命。

人を育て、医療を磨き、地域へ還す。愛媛の医療を支える大学病院の使命。

羽藤病院長 本院は今年10月に開院50周年を迎えます。スローガンは、医療を創る、人を創る、愛媛を守る。今日の座談会は、若い皆さんから生の声を聞き、本院の現在と将来について考えたいと思います。自由闊達な意見交換を希望します。

地域定着を支える人材育成と連携

羽藤病院長 まずは皆さん自身の経験から聞かせてください。医師として成長する中で、愛媛大学病院での学びや、県内外での経験が今のキャリアにどうつながっていますか。

加賀城 東京医科歯科大学に1年間留学しました。県外に出ると、愛媛の良さ、医療レベル、医療への向き合い方の解像度が上がりました。先輩たちから、勉強しなさいといつも言われていた意味もよく

わかりました（笑）。この1年間で後輩育成への意識にも繋がり、私のターニングポイントでした。

三谷 私も県外の医療機関や海外での研修・留学は、本院や愛媛という地域の強み、医療文化や学び方の違いを認識するいい機会でした。接する人が皆温かいと感じるのが、ここ愛媛です。

羽藤病院長 皆で協力し、皆で助けあいながら人を育てる環境があるのが愛媛なのかもしれません。教えたがりの人が多いと個人的には思っています（笑）。

小泉 私はほぼ愛媛で経験を積んできました。一度、膀胱癌の早期診断で有名な病院で数か月研修し、本院の医療レベルは有名病院と大きく変わらないと実感しました。県外に出て視野を広げる、刺激を

受けることは大事だと思いますが、本院でも専門性の高い研修や臨床研究の経験を積めると思っています。

丸田 私は医師5年目まで宇和島で勤務し、先輩方の熱心な指導のもとで患者さんを一貫して診た経験が、医師としての基礎になっています。また、竹中教授から様々な機会をいただき、愛媛にいなから臨床研究の事務局などを経験できたことにも、キャリアのセレンディピティを感じています。

渡辺 愛媛県は人口当たりの手術支援ロボットの台数も全国有数で、充実した指導医のもと、若手が早い段階から高度な医療の中で研鑽を積めることは、愛媛大学の大きな魅力だと思います。また、米国赴任中は、患者さんから提供いただいたサンプルを積極的に研究に活用し、そ

の成果をよりよい医療として患者さんに還元する研究に携わりました。今後も全国・世界の研究者と連携しながら、愛媛から世界へ発信できる研究を展開していきたいと思っています。

木下 全ての科が高いレベルで手術が行われており、手術技術が高い医療機関だと、研修時代から感じていました。中でも、愛媛大学白菊会の皆様の尊い御意思のもと、御献体を通じて手術手技を学ぶ貴重な機会を頂いていることは、我々若手医師にとって大変大きな意義があると感じています。また、県内だけでなく、県外の先生に来ていただいての教育環境も県全体のレベルアップに繋がっています。

羽藤病院長 県内の各医療機関との連携は、ますます緊密化しています。病診・病病連携があったからこそ、50周年を迎

えることができました。先達の先生方を含め関係者の皆様に感謝申し上げます。次世代の医療人も、この連携の中で育んでいかねばなりません。若手医師も、いつかは教えられる立場から教える立場になります。皆さんには、未来の医療人を育てることも期待されています。

高度医療と研究、地域への還元

羽藤病院長 本院は愛媛の最後の砦として、高度で専門的な医療を確実に受け入れる役割が求められています。皆さんも、このことに異論はないでしょう。最先端の治療や研究の成果をいかに県内全体に還元・共有させていくのか、各診療科の現場からどう考えていますか。

加賀城 私の専門は小児血液腫瘍で、この領域では、腫瘍遺伝子検査、分子標的

薬、CAR-T療法などの細胞治療の進展を見据え、治療選択肢の拡大と副作用軽減、将来のQOL向上を目指しています。治療の高度化と併せて、子ども自身が病気や治療を理解し、自ら治療に参加できること、入院中も子どもらしく過ごせる環境づくりも大切だと考えます。

三谷 専門性の高い診療では、手術技術の維持・継承に加え、遺伝子パネル検査や新たな薬物療法への対応、専門職間の体制整備が必要です。専門分化が進むことは今後も続きます。そうなると横の関係が希薄になるので、横断的な連携を弱めない体制づくりが必要です。

丸田 我々としては、患者さんが愛媛のどこにいても、必要な治療を速やかに受けられる体制をつくりたいと考えています。そのために地域からのご紹介を迅速に受

第三内科
小泉光仁

感染制御学講座
加賀城真理

耳鼻咽喉科・頭頸部外科
三谷壮平

病院長
羽藤直人

泌尿器科
渡辺隆太

腫瘍センター
丸田雅樹

整形外科
木下智文